

平成30年度第3回文京区文化財保護審議会 要点記録

*日時	平成30年11月8日(木)午後6時～午後7時30分
*場所	教育委員会室
*次第	I 開会 II 議題 文京区指定文化財の指定について III その他 IV 閉会
*出席者	文化財保護審議会委員(谷川章雄、中村ひろ子、藤井英二郎、内田青蔵、副島弘道、佐藤信、岩淵令治) 事務局(矢部文化財保護係長、川口文化資源担当室長、鈴木文化財保護係主事、町田文化財調査員)
*傍聴者	0人
*資料	資料第1号 文京区指定有形文化財 指定説明書(案) 別紙 文京ふるさと歴史館編『文京ふるさと歴史館年報』17号 参考資料 旧備後国福山藩主・華族 阿部家資料目録 参考資料 文京区文化財指定基準

I 開会

II 議題

1 文京区指定文化財の指定について

旧備後国福山藩主・華族 阿部家資料について

事務局が資料第1号に基づき、指定説明書(案)の説明を行った。

《会長》それではご質問・ご意見等がございますか。

《委員》この文書の真ん中に「本資料群は～」のところで、「自家の資料を選定し、整理・袋詰めしたうえで文京区に寄贈した資料が大部分を占める」というのは、寄贈されたもの以外に集めたものも入っているのですか。

《事務局》所蔵資料目録は歴史館でまとめられた資料目録で、大きく分けて西片町会寄託阿部家資料と阿部家寄贈資料の二種類です。西片町会寄託阿部家資料は第1次、第2次寄贈分があり、阿部家寄贈資料は第1次、第2次、第3次寄贈分で、全部で5段階に分けての寄贈になります。西片町会寄託阿部家資料は阿部家前当主が自家の資料を選定し整理、袋詰めしたうえで寄贈した資料です。阿部家寄贈資料は、それ以外のものになります。西片町会寄託阿部家資料は阿部家前当主が自分で整理、袋詰めしたものを地元の西片町会に一旦預けたもので、有志のメンバーで調査し目録にしていますが、後に歴史館で受け入れることになり西片町会を経由して文京区に寄贈されました。阿部家寄贈資料は西片町会を経由せず、阿部家から直接文京区に贈られた資料です。阿部家寄贈資料は、阿部家前々当主にあたる正直さんに関わる資料が多いです。西片町会を一旦経由し

て文京区に寄贈された資料が多いので、このような書き方をしました。

《会長》ありがとうございます。他に何かございますか。

《委員》名称ですが、ここで阿部家資料と言った方が良いと思います。旧備後国福山藩主・華族、この中黒はやはり名詞の並列というのが一番分かりやすい考え方で、旧備後国福山藩主であり、かつ華族という時に中黒で良いのか、点が良いのか分からなくなります。同じく名称でスペースを空けるのは適当ではないので、阿部家資料が一番簡単だと思いました。また年代ですが、この近現代という言葉は太平洋戦争が終わるまでを近代、戦後を現代と区分する人もいれば、全部併せて明治から今日までを近現代という方もいます。今回は平成まで入っているので、近現代という言葉を使うならば、今後も文京区では近現代という言葉は生きてきます。近代、現代と分けるのかきちんとしたほうが良いと思います。員数ですが、阿部家資料として1件ではないかという気もします。平成のものや冊子のコピーなども交えて1つの歴史資料として文化財指定することが、国、都道府県、市区町村で増えていくと思います。例えば東大のものを一括して歴史資料で指定した時、平成の文書まで入っているのか分かる範囲で教えていただきたいと思います。

《事務局》まず、名称の旧備後国福山藩主・華族と付けるのは前回もご意見があり、参考にしたのが学習院大学史料館に阿部家の一族で棚倉藩の阿部家の資料で、最新の目録では「旧磐城国棚倉藩・華族」という形でそれを採用しました。阿部家資料と言ったときにどちらの阿部さんということになりますが、このように書くようになります。また年代の近世から近現代、あえて言えば時代ですが近世から現代だと思いました。

《委員》区として時代の名称を近代と現代、例えば1945年から現代とするならば今後も現代となるし、まとめて近現代という言葉を使うのか統一した方が良いでしょう。

《事務局》時代を書くべきか年代を書くべきか非常に迷いまして、資料の実年代から言うと弘化3年から平成25年までという書き方になります。

《委員》年号がないものもあるようですので、それは書けないですね。

《事務局》そうです。近世のものは非常に少ないですが、年号が書いてあるのが弘化3年で年号がないものが弘化3年より後という証拠がないので、書きづらいところがあります。

《委員》近世からは近代と現代を分けて今後も考えようとするなら、昭和20年以降は近世から現代と書かないとおかしいと思います。

《事務局》分かりました。それから員数の「件」という単位は目録を作成した段階で点数の把握はしていますが、厳密に細分されるところまでの単位は把握していません。冊子の中に挟み込み文書が結構あり、挟み込み文書を1点と数えて目録をとっていないので、点数にすると語弊があります。挟み込み文書が多く挟まっている冊子を1つの目録の一行という単位にしています。387という数字はそれを足したものなので、点数ではなく件かなと思います。

《委員》これを有形文化財に指定した場合、文京区に歴史資料は何件あるのか、美術工

芸品、彫刻は何件かと考えてしまいます。その場合1件の中に387件が入ってくるので違和感があると思いました。

《委員》資料目録では点数の中に形状によって冊とか通と呼ぶと思います。それを全部まとめたものが点数で表に書かれていますが、それはまずいですか。その1巻の中にまた何か入ったりしているからですか。

《事務局》そうです。そこまで厳密に細分して数えていないです。

《委員》それならば点でも良いと思います。件は今先生が言ったような感じがします。

《委員》この表を基にすると、これを足したものを点数ということは出来ないですか。それとも番号を足したものですか。

《事務局》この387は番号を足した数字です。

《委員》この2ページ目の家政の2行上に青図があり、状で4と書いてあります。青図が4枚入っているということですか。

《事務局》はい。青図4枚を1件と数えて集計し387という数字になっています。

《委員》福山市の東京阿部家資料はどうですか。

《事務局》同じような形だったと記憶しています。ある程度一括になっているものは点数を数えて1行にまとめて1件という形です。件かどうかわかりませんが。

《委員》この書付の状は、紙が何枚かに渡っていても1状なのですか。

《事務局》そうです。物が違えば点数は分けています。

《委員》これだけきちんと目録があるので一括ではダメですか。

《会長》番号のところに資料名がありますが、それについての数え方は決まりがないということですか。だから件になっているという話ですよね。

《委員》そうですね。例えば参政日記抄というのは、綴と書いてあり1綴と数えることができますが、状というものは複数あります。B121で表紙と題箋、これは8状とは言わないですね。

《事務局》基本的には状や綴とかの区分はそれほど厳密に考えていなく、一枚ものであれば状という形態です。形態によって分けてはいません。一括に入っているものを1つの行に入れていきます

《事務局》通常、歴史館で資料を整理する時、平たいものは状でとっています。

《委員》当時の数え方はそれなりに理由があったと思いますが、この目録は近世文書や中世文書の数え方とは多少違ってきます。それを今後も使うか、点数、員数をもう1回見直すのか。

《委員》中世だと形状のところは堅紙とか卷子装とか書きます。点数のところでは1通とか1巻とか普通はここで書いていきます。

《事務局》ここでは点数の単位は示していないで、形状として綴りにになっているか平たいものです。

《委員》一枚ものか綴じてあるかということですね。

《事務局》はい、例えば1状という形で点数の単位としてはとらえていないです。

《委員》その冊や状という言葉が、他の文書の目録のとりかたとは必ずしも一致していないということですね。

《事務局》そうです。あくまでもこれはうちの歴史館の中での整理の仕方、文化財の指

定を目指したものではありません。あくまでもうちの歴史館でのルールです。

《委員》現状とその数え方の数詞は、例えば美術工芸品の場合100種類以上あります。形で全部単位が変わり、その数詞を見れば形状も分かるという昔ながらの考えでやっています。国指定の場合、美術工芸品ではそのようにやるから、書籍等もそれと同じように形が分かるように数詞も決め、形も全部それで言うところがあるので、今回、文化財の目録を外に出すとき、どうすれば良いかひっきりかりました。

《会長》それでは論点を整理すると一つはタイトルで、これで良いかあるいは阿部家資料だけで良いのではというご意見がありました。年代に関しては、この指定説明書の年代が近世から近現代になっていますが、近代と現代はどこで分けるのか、あるいは近現代という言い方は果たして良いのか。

《委員》近代と現代と分けることが問題なのですか。分けるところが問題だったら、現代だと良いのですか。

《委員》現代というのは日本史の場合は終戦後をだいたい考えます。それが入ってくれば現代で、近世～現代で近現代と書かないほうが良いですね。

《委員》はい。

《会長》それでは近現代の近をとって現代ということではいかがですか。

《事務局》30年後とか50年後とかも現代で。

《会長》指定時ですね。近現代とすると近代と現代をどこで分けるかという議論になりますので、現状ではやはり近現代ではなくて現代のほうが良いという。

《委員》あるいは極端に言えば最終の資料の西暦年代を取ってそれを入れるとか。

《委員》コピーとか分からないものもあります。

《委員》それは年不詳なので分からないということで良いのではないのでしょうか。

《会長》分かるものだけの年代を出す。

《委員》現代でカッコしてそこに入れてしまうとか。

《事務局》一番新しいものだと平成25年です。

《委員》先ほどの話で現代がどこまでかというのは、指定時点の現代という解釈をされればそれで良いと思います。

《会長》それは仕方がないですね。あと387件という件という数え方で良いかどうか。参考資料の一覧表では、形状の隣に点数があり件と数えているのは番号を数えています。例えばB121の状は8つ、これが点数なのでB121は1件と数えています。一方で指定文化財は何件指定しているのかという問いに、文化財の名称に対応する形で件数というのは通常やはり数えているような感じがします。そうするとここで387件を稼いでしまうのはどうかと。

《委員》件ではなく点だったら良いのですか。というのは、近世はわりと状や綴とかにしています。何通、何冊、何巻みたいにきれいにいかないものがあります。いろいろなものが雑多にある場合は点にしています。例えば近世の古文書の文書館で公開されている～文書は点で出ていて、内訳が書いていないのが普通です。中世だと古文書の形式等が重要になってきますが、近世・近代の場合、文書の

形式・形態が多様になって限界もあるので、まとめた点数が良いかと思います。

《委員》その点は、この表の中の点数を全部足したものでですか。1点の中に複数あっても良いのですか。

《委員》カウントとして単位は点でも良いですか。問題は数え方、基準です。数え方ですが、例えばこの8は表紙8で題箋4枚となっていて、物理的な数え方だったらこれは12点ですね。割り切って物理的な考えをしないで、点数を足しあげて員数にするのはいかがでしょうか。

《会長》いかがでしょうか。それでは平成25年までを含めて一括で、点数を足していく、そのほうが分かりやすいかもしれません。次に名称についてですが。

《委員》どこの阿部さんか分かったほうが良いので、括弧で入れるのはどうですか。

《委員》後ろに入れる場合、旧はいらないのではないのでしょうか。

《委員》括弧で入れるとしたら、阿部家資料の後ですか。あるいは頭に～藩とか地名を入れるのはいかがですか。

《事務局》西片阿部家資料。

《委員》文京区西片阿部家資料。備後国福山藩主阿部家資料。

《会長》やはりどこの阿部さんか分かったほうが良いので、地名ないし藩主や家を入れ分かりやすいのは、備後国福山藩主阿部家資料が良いと思いますがいかがですか。「旧」と「華族」は取ります。よろしいですか。それでは資料第1号に関しては、今日の議論を踏まえて次の審議会までに修正をお願いいたします。

(了 承)

### Ⅲ その他

(特になし)

### Ⅳ 閉会

《会長》これをもって平成30年第3回の文化財保護審議会は閉会とします。